

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	総合政策部	防災危機管理課	自主防災活動について	<p>亀ヶ森では、自治公民館単位で構成し、「災害時は全員の安全避難最優先」と考えており、安否確認の仕組みづくりとの次事項に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各戸相互の連絡網の整備、連絡訓練。災害弱者支援体制の確認 ・日中は高齢者一人で留守状態なので、連絡も自分からする自動努力の啓蒙 ・隣近所の気配りの啓蒙。公民館活動との連携その上で、市が取り組んでいる防災ラジオによる情報伝達の仕組みについて伺いたい。 <p>①自分自身、防災ラジオからの湯口地区への避難準備情報を聴いて混乱した。振興センターへ電話しても内容がわからず後で湯口対象の情報と知った。 ②紫波町からはエリアメールが頻繁に入ってくる。紫波は進んでいる感がある。</p>	各自主防災組織内での連絡網の整備が重要となり、日ごろから情報収集訓練等を実施することも大切である。また、過去の浸水範囲、土砂災害の恐れがある区域等を示しているハザードマップを利用し、自宅や職場、学校などの周囲にどのような危険箇所があり、どのような経路で避難すれば安全かあらかじめ確認しておくことも重要となる。指定緊急避難場所や指定避難所等を記載したハザードマップを11月中に配布する予定である。指定緊急避難所は亀ヶ森振興センター、指定避難所は亀ヶ森振興センター、亀ヶ森小学校、亀ヶ森地区農業者トレーニングセンターとしている。
2	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	総合政策部	防災危機管理課	災害情報について	<p>情報伝達はエリアメールの方が良い。外で働いていても受信可能である。ラジオでは家の中に居ないとわからない。</p>	防災情報の伝達方法として、花巻市においてもエリアメールで一斉送信している。エリアメールのほかに、防災無線やFMラジオでも防災情報を放送しており、複数の方法で情報を流すようにしている。
3	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	消防本部	消防本部総務課	市職員の消防団への加入について	<p>市職員の消防団員加入についてどう考えているのか。盛岡市では新採用職員を全員入団させているとの話がある。</p>	現在、市役所職員の消防団員は100名程度である。新採用職員を対象とした研修の際には、消防団活動を含み地域でのボランティア活動にも取り組むように話している。
4	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	総合政策部 建設部	防災危機管理課 道路課	災害時の道路通行制限について	<p>平成25年8月9日の集中豪雨時の古田トンネル付近の通行止情報に不手際があったと思う。その時は、東和病院にいく用事があり、大迫側は早く通行止となり石鳥谷を迂回した。帰路は、東和側は通行止情報が表示されていなかったため盛岡大迫東和線で自宅に向かったが古田トンネル直前で通行不可と言われた。災害時の通行制限について、正確な情報をお願いしたい。</p>	市として本庁、大迫総合支所、東和総合支所の連携が悪かったのは事実である。今後は、本庁、支所間で連携して速やかに対応することとした。
5	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	商工観光部 大迫総合支所	商工労政課 大迫総合支所地 域振興課	若者の就労機会の確保について	<p>若者の就労機会を確保するため、企業誘致による雇用創出が必要と考えるが、市の取り組みなどについて伺いたい。</p>	<p>合併後に市に新規に立地した企業は21社で雇用増加は1,000人となっている。状況は、平成26年度2社、平成27年度は0で苦戦状態である。傾向として、製造業は既存設備の強化が主流となっており、当市でも200人の雇用増が生まれている。企業へのアプローチも今までのやり方、企業へのDM、企業からのオファー待ちでは通用しなくなっている。新しいやり方として、企業に対し、当市への立地で得られるメリット提示が求められている</p> <p>花巻はIT関係が弱く、求人があっても応募がなく岩手大学との連携も必要である。地元SWSの状況は、役員は大迫工場長経験者で、エーデルワイン商品をSWSの贈答品にも活用いただいている。</p>
6	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	大迫総合支所	大迫総合支所地 域振興課	ぶどうづくり隊について	<p>今年度から始めた「葡萄作り隊」の活動について、伺いたい。</p>	ぶどうづくり隊は現在20名、県内18名、東京2名でぶどう栽培の再生を目標としているが出勤機会が少ない。隊員の技術や農家に知られていないなどの課題はある。
7	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	総合政策部	秘書政策課	定住対策について①	<p>移住者には、空き家と仕事をセットで提供する必要があると思う。</p>	市でも空家バンクに取り組んでいる。不動産会社が仲介し、契約成立で100千円の奨励金や県外から移転した方には、住宅購入費などには2,000千円の補助を用意している。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
8	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	総合政策部	秘書政策課	定住対策について②	転入者のターゲットを東京に絞るのはいかがなものか。県内からの転入の方がアプローチしやすいのではないかと。	首都圏をターゲットにしているのは、近隣自治体間における人の奪い合いを避けるためである。例えば、北上市はいくらか出しているから花巻でもっと出すなど値上げ競争は避ける必要がある。
9	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	大迫総合支所	大迫総合支所地域振興課	高齢者活躍の場を拡大することについて	農業の担い手確保が急務である。機械は更新できるが人は更新できない。	花巻市シルバー人材センター大迫支所では、草刈作業のほか、ぶどうの栽培や収穫についても作業の斡旋をしていることから、高齢者活躍の場として、同センターに相談したい。なお、派遣する人材を対象とする技術修得の機会も設けている。
10	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	建設部	道路課	インフラ整備について	亀ヶ森1号線6区と7区の境の坂の路盤が歩道側に低くなっており、センターラインを越えて走行する車両が多く危険であることから、カーブの改良またはカーブミラーの整備が必要と思われるため検討していただきたい。また、亀ヶ森全域において、県道の歩道のひび割れが目立っていることから、県へ要望願いたい。	歩道の除草、路盤の空洞化、オーバーレイで車道が上がり歩車道ブロックが低くなっていること、亀ヶ森1号線の急カーブ解消について、県道関係については9月18日付で補修対応を要望済である。亀ヶ森1号線対応はサイン表示となる。
11	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	建設部	道路課	土木要望について	土木要望に際し、早期完成に努力願いたい	年間要望件数は300件を超え、多路線採択し長期間をかけて実施している状況である。国予算は大変厳しい。理由は中南海地震対応を視野に入れている模様である。市としては、平成27年度に2つの橋梁整備、太田橋、豊沢橋を延伸して調整している。平成28年度に2橋梁を整備することとなれば新規は0採択となるかもしれない。
12	H27.10.1	市政懇談会 (H27)	亀ヶ森	大迫総合支所	大迫総合支所地域振興課	ブドウ棚更新について	ブドウ平棚を更新したいが補助制度はないか。	ブドウ再生産をどう進めるかは支所の課題であり、ニーズと事業費を確認させる。
1	H27.10.6	市政懇談会 (H27)	内川目	健康福祉部	健康づくり課	医療体制について	平日夜間、土日祝日は、大迫地域に医者がいない。高齢化社会になっているが、今後の対応どう考えているか。	現在、全国的に医師不足である。花巻では県と県内市町村で実施している市町村医師養成事業に負担金を拠出している。一次救急は、休日当番医で対応 二次救急は、病院群輪番制を実施して対応している。大迫の診療所の夜間・入院対応は難しいことから、今後とも診療所として残していくことに力を注いでまいりたい。
2	H27.10.6	市政懇談会 (H27)	内川目	消防本部	警防課	救急車の対応について	引き受け病院決まるまで救急車走らない。大迫のバイパスまで行く間にも病院が見つけられないものか。20分位は早く病院に到着するのではないかと。	戻ったりしないよう引き受け病院を確認してから、走行している。内川目から大迫のバイパスに行くまでに、一本道であれば準備出来次第走行できる。受け入れ病院を連絡を取り合いながら、後戻りしないよう消防署へ連絡して実施してもらう。 (補足) 救急隊は、傷病者を観察し必要な処置を施し、その情報を病院に伝え取容依頼を行っており、状況によっては現場に滞在する時間が長くなることもある。 また、傷病者搬送中であっても搬送先病院が決定しない場合は、搬送途中に路上で待機することがある。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
3	H27.10.6	市政懇談会 (H27)	内川目	大迫総合支所	大迫総合支所地 域振興課	観光資源の活用について	内川目は観光資源が豊富と考えるが、市の考えを伺いたい。	早池峰山・神楽は重要な観光資源、登山客約2万人と年々増えてきて いる。ふもとの滝や賢治ゆかりの地と組み合わせてトレッキング等案内 ガイド充実させたい。早池峰ダム湖畔でのロードレースがH24年で中止 となっている。体協での運営が続かないということであるが、道の駅周 辺の観光開発は要検討としている。 何のために何を求めて観光客を増やすのか。観光客が通り過ぎるだけ ではだめなので、地元にお金を落とす施策と一緒に考えたい。
4	H27.10.6	市政懇談会 (H27)	内川目	農林部	農村林務課	林業振興について	林業が盛んになるはずだったが現状は、山林の管理と維持が大変。伐 採後に植林する考えがない。補助が少ないように思う。林業振興に対す る今後の考えについて伺いたい。	北上の合板工場の稼働に加え、花巻第1工業団地にバイオマス工場建 設着工され、今後B材C材D材は、需要が増す。 しかし、建築用材A材の需要は低迷しており安定した供給先が見えてい ない。地元の木材を活用しようにも製材工場等加工施設がないので、コ ストがかかる。木材需要等についてももう少し調査が必要である。植林に 対しては市の嵩上げも含めて75%補助制度あるので活用してほしい。
5	H27.10.6	市政懇談会 (H27)	内川目	教育部	教育企画課	学校統合について	子どもが少人数になってきているが、小学校の統合もありうるのか。早く 教えてほしい。	少人数で、複式になってきているが、適正規模があるので、検討委員会 を立ち上げたい。 平成27年1月に国(文部科学省)から公立小学校・中学校の適正規模等 に関して、手引きが示された。通学 時間についておおむね1時間以内を 一応の目安とすること、小規模校の存続に当たってはデメリットの緩和 とメリットの最大化を実現すること等の見解が示された。 手引きの内容は1学年1学級以下の公立小中学校について、統合する か存続するかを検討を促すものであるが強制力を持つものではない。 文科省は、市町村が保護者や地域住民と課題を分析・共有したうえで 決めるものだとして繰り返し述べている。 市では、本年度において有識者等による保育教育環境検討会議を設置 し、前述の内容について情報共有し、意見交換を行った。今後はこの会 議で、子どもたちにとってより良い教育環境を整備するための基本的な 考え方を2～3年かけてしっかり検討したい。 学区の再編等は地域や保護者の合意が得られることが前提であり、将 来的な児童数の推移、小規模校のメリット、デメリットの検証等の資料を 提示しながら、十分な話し合いの機会を設けてまいりたい。
6	H27.10.6	市政懇談会 (H27)	内川目	商工観光部 大迫総合支所	観光課 大迫総合支所地 域振興課	神楽ツアーについて	過去には、行政がらみで参加ツアーを実施していたが、現在は個人で ツアー計画し毎年開催している。地元にお金が落ちるよう市にも協力し てほしい。	神楽の愛好家が全国にいる。このツアーをもう一步進めるようにした い。観光に関してJTBのOBを観光協会に年明けに配置予定している。 日帰りのイベントだけでなく、宿泊プランを取り入れて仕掛けて行くよう 企画等をしてもらいたい。担当課にも考えるよう指示している。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H27.10.14	市政懇談会 (H27)	新堀	石鳥谷総合支所	石鳥谷総合支所 市民サービス課	戸塚森森林公園の管理について	戸塚森森林公園は、憩いの森、観光地でもあり、公園管理人の配置や最近では下水道完備など適正な管理をしていただき、感謝している。そこで、今後の整備や管理について、市の考えを伺いたい。 戸塚森の頂上付近に展望台があり、頂上へ上る道路も整備されているが、周りの雑木が伸びたため、せつかくの眺望が悪くなっている。このため、頂上付近展望台及び頂上へ上る道路の谷側法面5m程度、山側法面の道路に覆いかぶさっている雑木の伐採処理が必要だと考えている。 また、戸塚森の南側は民有地となっているが、頂上からの見晴らしを良くしていただければ、観光地としてのイメージアップが図られると思う。 戸塚森には旧町時代から1,500本の桜の木を植えており、下の方には枝垂桜、八重桜、中腹にはソメイヨシノ、山頂付近には山桜を植栽している。中腹より上に植えた桜は、周りの雑木が大きくなったため、見えなくなってきたので、周りの木を伐採してほしい。 管理棟から上の方へ上る所に階段を作って安心して上れるように整備したが、頂上付近の階段がなくなっているため、階段をつけてほしい。	戸塚森森林公園は、市内をはじめ、市外、県外の多くの方が来園され、平成26年度は、3,379人に宿泊等をしていただき、管理人が集計した4月から11月の開園期間に約8,000人の方が訪れている公園であり、皆様に親しまれている憩いの場となっている。 戸塚森森林公園の展望台や頂上へ上る道路沿いの雑木が伸びたことで眺望の支障になっているところは、適宜撤去していきたいと思っている。 しかし、道路の谷側は急傾斜地が多く、伐採により土砂崩れなどが予想されるので、道路沿いの全ての伐採は難しいところだが、眺望確保のために、地域の方々や伐採箇所を選定し、対応したい。 展望台付近の南側の雑木を伐採することにより、素晴らしい眺望スポットとなると思うが、範囲を決める相談をしながら伐採方法を検討したい。 桜の木は、桜の名所にする目的で植栽したと記憶しており、一気には無理だと思うが、管理人と現地を確認しながら対応したい。 管理棟から頂上への階段は、公園内の木を使用して設置したものだと思うが、現地を確認し、方法を検討して補修していきたいと思う。 1,500本の桜の木が大きくなったら見事だと思うので、楽しみにしたい。 花巻市の中でキャンプ施設やバンガローは以前は野外活動センターと古代村があったが、今は両方ともなくなったため、戸塚森森林公園は非常に貴重な場所になっている。財源の問題はあるが出来ることを着実にやらせていただきたいと思う。
2	H27.10.14	市政懇談会 (H27)	新堀	総合政策部 石鳥谷総合支所	地域づくり課 石鳥谷総合支所 地域振興課	石鳥谷大橋及びあじさいロードの花壇の管理委託について①	石鳥谷大橋には、新堀側と八幡側に48か所の花壇があり、そこに「シバザクラ」を植えており、例年市の予算で草を除去していただいているが、残念ながら今年は草の除去が9月くらいになってしまい、手で取る草ではなく草刈機で刈るような草になってしまった。残念ながら花壇としてのイメージがなくなってしまうと新堀地区民が思っているので、草取りを夏場と秋の2回くらいは、国体も来るので、お願いしたい。もし、市のほうで手間がかかるということであればコミュニティとしても考えなければならぬと感じている。 あじさいロードにも大きな花壇が13か所あり、「あじさい」と「どうだんつじ」を植えている。まったく手入れがされておらず今年の草刈りは9月になってから行っていたが、草が伸びて非常に見映えも悪かった。少なくとも花木の手入れは年1回だとしても、草取りは年2回くらい必要ではないか。特に来年は国体開催の年でもある。戸塚森森林公園やこの一帯を新堀地区あるいは花巻の一つの大きな観光ルートにしたいと考えている。これについても市でなかなか手が回らないということであれば、コミュニティとしても考える余地があると思っている。	石鳥谷大橋及びあじさいロードの花壇については、今年の発注が大変遅れて、高橋会長からも再三お話をいただいたところで、お詫びを申し上げる。石鳥谷大橋、あじさいロード共に以前はシルバー人材センターにお願いしていたが、人手不足のことから、造園業者への委託により、年一回の除草及び草刈等の作業を実施している。 今年度も同様に造園業者に委託発注したところだが、除草作業の人員確保の関係から、皆様にご迷惑と不快感をおかけいたしました。 近年、人件費の上昇や作業員の高齢化が進み、造園業者においても除草作業の人員確保に支障が出てきている状況であり、花壇の管理について地元からの協力を得られることは非常にありがたいことと思っている。 つきましては、来年度からの適切な管理に向け、地元と協議させていただきたいと考えており、よろしくお願ひしたい。 コミュニティ会議にお願いする場合、どのような形ならやっていただけるかという話を進める必要があると思う。今までコミュニティ会議は人件費には市の交付金を使うことはできないことになっていた。私はコミュニティ会議というのは地域の助け合いということであれば、もつといろいろやっていただくことを依頼するべきだと思っている。本当地域づくりのことをやっていただいて、それについて地域の方々に汗を流していただいた分について、コミュニティ会議でお礼を払える形でもいいと思う。2億円を減らすのではなく、そのようなことに使っていただくと、有効活用してもらうのは考えてもいいのではないかと考えている。そういうことで、コミュニティ会議にいろいろお願いすることが多いと思うので、是非いろいろな話をさせていただきたいと思っている。
3	H27.10.14	市政懇談会 (H27)	新堀	石鳥谷総合支所	石鳥谷総合支所 地域振興課	石鳥谷大橋及びあじさいロードの花壇の管理委託について②	雑草が伸びて高くなっている所もあり、交通面で危険なので、早急に草刈りをお願いしたい。	お詫び申し上げます。過去に交通事故が起きたこともあるので、適正な管理に向けてコミュニティ会議と是非お話をさせていただきたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
4	H27.10.14	市政懇談会 (H27)	新堀	建設部	都市再生室 道路課	まちづくり開発等について	国の補助金関係の適正計画策定という話で、公共施設とか住居の整備計画の話を出されたが、病院の移転とかそういったものについては街場に賑わいをという目的がはっきりしてわかりやすい。石鳥谷町の話が出ているようだが、新堀地区も含めて、ここは農村地域なので家の跡取りがどんどん住みやすいところへ出て行ってしまふ。東京に人口が集中して岩手県に人がいなくなったということにつながると思うが、国の政策でそういう補助金があり、一気に使わないと損なので、その話も分かるが、例えば石鳥谷の好地で一部を宅地整備、空き家とかも結構あると思う。今度民間が新しく民間が開発しようとする土地の片方がとても道路が狭くなっている。あそこを今開発されてしまうと反対側に住んでいる人たちが開発しようとしたときに住みづらくなるし、開発しづらくなる。せっかく市のほうでそういった構想があるのであれば、今開発しようとしているところも将来的に道路用地としてその分確保しておくなどしたほうが良いと思う。紫波町では西側に役場を持って行ったが、駅は目の前にあるし住みやすく、反対に街中はさびれてしまった。新堀もそうだが、とにかく今住んでいる人たちのところにも何とか予算を向ける方法を考えてほしいと思う。要するに子供たちに帰ってきてほしい、孫も一緒に住みたいという観点からのお願いである。	国の補助金について、旧花巻市あるいは花巻市全体の病院の確保が必要だということを考えている。旧花巻の街中に病院を持って来れば国から補助金が出る可能性があるのを、それを進めたいと考えている。それから旧花巻図書館は非常に貧弱になっているので、新築のときに来るだけ国のお金を確保したいと思っている。このような施設を造るときに国土交通省が定めている立地適正化計画において、都市機能誘導区域を設けるとするのは重要である。都市機能誘導区域というのは居住誘導区域と重ならないといけないので、居住誘導区域を旧花巻市の街中に指定することになる。石鳥谷は、補助金をもらうために居住誘導区域を指定するものではない。石鳥谷は盛岡市にも比較的近い地域のことから新たな人が住むのではないかと。そういう人たちが来るときに居住誘導区域として石鳥谷駅前が住宅地として価値があるというメッセージを出したいということである。民間業者の開発の話が出たが、石鳥谷駅前に空き地があり、良質な住宅地として開発すべきだと思っていたが、具体的な話を詰める前に民間の方が始めてしまった。区画をもっと広く道路もきちんと整備したかったが、狭い区画で住宅地を整備することになったことは、私の本意ではないが市の権限が限られている中で強制的に変更させることはできない。今回開発する区域以外の場所をどのようにするかを市も考えなければならぬので、検討していただいている状況である。市としてもある程度きちんと計画を作るべきと考えており、総合支所にその部分を含めて検討していただいている。私はいろいろな場所に新しい住宅地を無秩序に開発した結果、既存のところが衰えることはよくないと思うので、あまり街の範囲を広げることはしたくない。今回立地適正化計画を策定した場合、無秩序な開発をしたときにある程度市のほうで発言する権限が出てくるので、無秩序な住宅地の開発等は止めていきたいと考えている。
5	H27.10.14	市政懇談会 (H27)	新堀	総合政策部	防災危機管理課	防災ラジオの自動起動試験時間等について	民生委員として、防災ラジオを預かっているが、定期的に行われているラジオの自動起動試験は午前10時頃である。できれば昼頃に試験を行っていただければ確認できる人が多いと思う。また、警報が発令され、災害警戒本部が設置された時にも放送が入れば良いと思う。	昼の時間にFMはなまきを聴く人が多いと思うので、午前10時ではなく、昼に実施するのは良いアイデアだと思う。防災危機管理課へ話をしてみる。現在、花巻市は警報が出やすくなっており、日頃から注意を払っていた方がいいことだと思うが、警報が出るたびに皆さんにご迷惑をおかけするので、気象庁の基準が下がって警報が出にくくなったときに、実施する方がよいか検討させていただきたい。
6	H27.10.14	市政懇談会 (H27)	新堀	生涯学習部	スポーツ振興課	鉛スキー場の営業継続について	生涯スポーツ関係で年に2回ほど鉛スキー場へスキー教室の子供たちのを連れて行っている。経営は厳しいと思うが、身近に行けるスキー場なので今後も継続をお願いしたい。	承りました。確かに毎年数千万円の赤字になっている。なかなか厳しいこともあるが、希望があるということをしっかり頭に置いて、今後の存続については、そういう意見を踏まえながら考えていきたいと思う。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H27.10.21	市政懇談会 (H27)	土沢	健康福祉部 東和総合支所 教育部	健康づくり課 東和総合支所地 域振興課 こども課	空き公共施設の活用について (東和保健センター、とうわこ ども未来館)	現在、東和コミュニティセンターはエレベーターがなく、高齢者や障がい者の方々から不便を指摘されており、耐震上も問題がある。については東和保健センター、とうわこども未来館、これら空き公共施設を東和コミュニティセンター利用団体に貸出していただけませんか。	<p>昨年市政懇談会において東和コミュニティセンターに対する市の考えはどうかという意見がだされたことを受けて、東和コミュニティセンターあり方検討委員会や利用団体との意見交換、アンケートを実施してきた。本年9月24日には市長に対して東和コミュニティセンターの在り方について検討委員会から提言書が提出された。</p> <p>市としては平成18年に耐震診断を実施しているが、震災後は耐震診断を実施していないことから、再度、本年12月に行う予定としている。その結果をうけ、いつまで使用に耐えられるか見極めながら必要であれば、東和総合福祉センター、東和保健センターそして東和総合支所の活用について、利用団体と協議しながら検討してまいりたい。</p> <p>とうわこども未来館については、旧東和町時代に児童福祉施設として建築された建物であることから不特定多数が利用するいわゆる集会所として使用することは建築基準法上及び消防法上、法令違反となる。それをクリアするためにはかなりのお金をかけて改築する必要があるため、とうわこども未来館の利用は考えていない状況。いずれ東和地域の最重要課題として検討委員会、ワーキンググループ、利用団体、地域の方々からご意見を賜りながら前向きに進めていきたい。</p>
2	H27.10.21	市政懇談会 (H27)	土沢	総合政策部 東和総合支所	秘書政策課 東和総合支所地 域振興課	空き公共施設の活用について (東和高校)	東和高校の今後の在り方について、現在は岩手県の保有財産と認識しているが市当局の考えをお尋ねする。	<p>東和高校は平成22年3月に閉校し岩手県教育委員会が管理者となっている。閉校する前から岩手県から活用について打診があり、東和地域のみなさんから意見をいただき検討したが具体的な活用策がまとまらなかった。</p> <p>現在は少年野球リトルリーグの練習場所となっていると承知している。その後岩手県から活用策について、あるいは東和総合支所からも地元のみなさんと機会をみて意見交換してきたが、なかなか具体的な活用策というところまで至らないで話し合いが終わっている。</p> <p>市としては現在具体的な考えはなく、岩手県からも意見照会などの動きがない状況。大きな課題であることから市としても取り組んでいく必要があると思っている。</p>
3	H27.10.21	市政懇談会 (H27)	土沢	総合政策部	秘書政策課 総務課	市のホームページについて (ふるさと納税・コミュニティ会 議)	ふるさと納税は地域の物産の紹介やPRとなり事業主の励みにもなると思っている。紹介ページをさらに充実していただきたい。コミュニティ会議の情報や活動状況について、地域づくりという箇所をクリックしそこから右右と追っていかねばならない、トップページから入れられるようにすれば素人の私でも見やすくなる。	<p>ふるさと納税は、去年は600万を超えた程度だったが、返礼品を始めたこともあり今年は8000万円を超える寄付を頂戴している。発信の方法としてホームページは有効であるが、指摘の通り見にくいという批判もあった。</p> <p>平成26年2月にホームページを新しくしたが検索がなかなかうまくいかなかった今年9月に改めて検索しやすくするため、トップページから見たい情報に入れるように見直しをした。少しずつ見直しをしているがなかなか一気にはいかないというのが状況だが、見たい情報をトップページに集めるなど、検索の回数をできるだけ少なくして見やすいようにしていきたい。</p> <p>コミュニティ会議は様々な活動をしており、その活動に対して皆さんからご理解をいただき少しでも多くのご協力、ご参加をいただけるよう、広報紙、ホームページが見やすくなるよう努める。</p> <p>ご指摘の問題点については我々もまったく同じ意見。フェイスブックは1000人近い方に見ていただいており情報が拡散するのでフェイスブックも活用し情報を発信する。コミュニティ会議についても同様に情報が見やすくなるように検討している。</p>

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
4	H27.10.21	市政懇談会 (H27)	土沢	総合政策部 商工観光部	秘書政策課 総務課 観光課	市のホームページについて (観光情報)	JRに大人の休日倶楽部というのがある。休日パスというのがありそれを見ると最寄駅から何分とか、車やバスで何分という情報がある。それを見て中高年齢の方たちが多く観光している。例えば半日で周れる観光コースや、バスで何分などの情報が市のホームページにあれば、そういう人たちが参考にして周るのかなと思う。	観光宣伝も市ホームページの大事な要素でありどんど使っていきたい。今年早々は市役所の観光ページがなく、観光のページを開こうとすると観光協会のページとなり花巻市は観光に消極的という批判があった。観光も重要な産業であることから見直しをしているがご提案の観光ルートの部分までは至っていない。研究しながら県内外の皆さんに見ていただけるような花巻市のホームページに変えていきたいと思っている。 観光についてはなるほどと思った。おっしゃるような観光コースの設定は必要と思う。場合によっては動画を入れるなどすれば更によくなると思うが、職員が少ないため既存のイベント等に時間をとられ本来の観光促進に時間がなかなか使えない状況にある。また、ホームページの専門家でなければおっしゃったようなアイデアがでてくるのは難しい現状から体制を変えないとすぐにはできない。しかし非常に重要なので考えさせていただきたい。
5	H27.10.21	市政懇談会 (H27)	土沢	農林部 商工観光部	農政課 商工労政課	6次産業化の推進について	地域で採れた農産物や加工品を、例えば東和温泉や産直で売るなど生産者と商業者を引き合わせるための情報提供やマッチングがあってもいいのではないか。岩手県ではふるさと食品コンクールを開催して6次産業化を推進しているようだ。所得の向上と、雇用の創出というものが少しでもあれば地域の農産物促進のためにもなる。花巻市としての取り組みをお聞きする。	現在、岩手県内で6次産業化や地産地消の国の認定を受けている団体が49ある。うち花巻市は9団体で県内では一番多く東和地域にも2団体ある。 市では農産物の加工販売を希望する方々について、商工労政課で加工器具の購入補助や開発経費の助成を行っている。また、起業化支援センターでは商工関係の金融機関などの情報提供、及び専門職員による相談体制をとりながら支援を行っている。お話があったマッチングの部分についてはこれから進めていきたいと考えていることから、広く発信しながら多くの方々に参加していただくような体制にしたいと考えている。 6次産業化について意義は二つあると思う。一つは農家の方々が加工して所得を上げるということ。もう一つは花巻の特産品としてヨソに売って花巻にお金が入ってくる。市内だけの流通であれば花巻市全体で見た場合には何も変わらない。例えば農家が漬物を産直に置いて売る。そうすると別の市内で生産された漬物が売れなくなるだけ。起業化支援センターのアドバイスは供給する側のアドバイスであって消費者が求めるアドバイスではない。 消費者の目線で意見をもっている人材を入れた商品開発が必要という話をしている。市の支援ではないが佐藤ぶどう園の干しぶどう、東和の佐々長醸造(株)のつゆ、(株)ブルージュの平泉黄金パウムが、復興庁の「世界にも通用する究極のお土産」の選出10商品に選ばれた。いずれも消費者に受けるものを作っており、消費者目線で開発できる人材を入れないとなかなかうまくいかないことからその体制について考えていきたい。今、大迫総合支所でぶどうを使ったお菓子を研究している。そこにどうやって消費者の目線を入れるかということを研究している。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
6	H27.10.21	市政懇談会 (H27)	土沢	総合政策部 東和総合支所	秘書政策課 東和総合支所地 域振興課	地域おこし協力隊について	<p>千葉から移住してきて20年になる。そのため外から来た人の気持ちもわかる。また、地域おこし協力隊の二人に東和町に定住していただきたいと願っている。二人ともその気は十分にあり、定住してもらうために次の4点について検討してもらえればと思う。</p> <p>1点目はまず何をしたいと思っ来て来たかということを確認すること。2点目はそれをもってより多くの人と接するようにすること。3点目は農業や商業の専門機関での研修の機会を設けるということ。あの二人はなにかの専門家でもないのでまず自分が研修する機会をできるだけもたせる必要があると思う。4点目は地域おこし協力隊の取り組みを早くから取り組んでいる地域に派遣して学ばせるということも必要だと思う。3年後に自分の進むべき道がはっきり決められるように二人の自主性を重んじながら取り組んでいただきたい。</p>	<p>東和の地域おこし協力隊の二人は8月から市の非常勤職員として勤務していただいている。一人は農業の分野、もう一人は商工連携やまちづくりということで着任していただいたが、ご意見の何がしたいのか再確認や、より多くの人と接する機会ということはおっしゃるとおりと思う。花巻市には東和の他に大迫に二人、花巻に一人、五人の協力隊の方々がいる。また、石鳥谷に来年の4月から二人着任する予定となっております。交流や研修の機会については県内に地域おこし協力隊が34人の方が活躍しており、そういった方々に声をかけ11月7日に花巻市主催で地域フォーラムを開催し情報交換をすることとしている。また、大分県竹田市では35人の協力隊が活躍しており、そのような先進地事例を参考にしていきたい。</p> <p>お話のとおり東和に着任している二人は3年後には東和に住みたいという希望を持っている。しかし何で生活していくかということは今から心配しており、二人と話をしながら探索しなければと思っている。まだ東和に来て2か月半なので、人や地域を覚えていただきたいと思っていることから温かい目で見守っていただきたい。また、関係者への二人の活動報告会を10月30日に開催することとしている。また、一般の地域の方には有線放送等で紹介したいと思っている。</p>